

好投好打も失策響き

「悔しい」一敗

亜大 3-2 駒大

1回戦

12年秋季リーグ

第3週・9月18日

0勝1敗

亜大	100	020	000	3
駒大	101	000	000	2



長打2本を含む猛打賞の中谷【右】
2戦連続無四球完投の井口【左】



【駒大】	打安点
⑦中谷	530
⑧小林	420
⑤下川	521
⑥白崎	300
⑨江越	411
DH柳原	200
HD山口修	200
③福山	420
②戸柱	410
④砂川	300
PH前田	100
計	37112

▽二塁打=小林、中谷
▽三塁打=中谷

回	打安責
●井口 9	3350

1部復帰後、亜大戦で未だ勝ち星を挙げていない駒大。先発・井口拓皓(経4)は散発5安打に抑える投球を披露し打線も二桁安打を放つが、いずれもミス絡みの失点により惜敗。勝利をものにするにはできなかった。

「絶対的エース」東浜巨(4年II沖縄尚学)を擁する「絶対王者」亜細亜大学との一戦。

初回、井口は先頭打者に安打を許すと、自らの二塁送球ミスで先制点を献上。しかし打線はその裏、東浜の立ち上がりを攻めすぐさま同点。3回にも得点し1点リードで迎えた5回、「投手に申し訳ない」と唇を噛んだ三塁手・下川知弥(営2)が打球

をグラブではじき走者を許すと、続く打者に右中間適時三塁打を放たれ同点。さらに二ゴロ間にも走者が還り逆転のホームを踏まれる。

いずれもミスからの失点で、夏場に徹底して鍛え上げた守備にほころびが見えるかたちとなった。

その後も、井口は「調子が上がらないなかでもまとめた」と話すように2試合連続となる無四球完投を果たすが、打線は4度にわたり走者を得点圏に進めながらも決定打が出ず、得点することはなかった。

「勝てた試合」。試合後、選手たちは揃って口にした。投手が5安打に抑えても打者が2桁安打を放つても、1つのミスが命取りになる、それが戦国東都だ。優勝戦線に生き残るために、今カードが重要であることは言うまでもない。初勝ち星を獲得した暁の勝ち点奪取へ、明日は絶対に負けられない。

文II松井智子

写真II池田初

瀧埜ひとみ

高橋伽奈

ROOKIES・山口修平#34

2ストライクと追い込まれてからの3球目、思い切り振ったバットからは快音が生まれる。打球はピッチャーの横を抜けセンターへ。転がった打球を見ながら照れくさそうに“新星”は1塁で微笑んだ。初打席初安打初打点、チームの勝利をグッと引き寄せる1打で神宮デビューを華々しく飾った山口修平(市1)。初の大舞台にもかかわらず、萎縮するどころかむしろ堂々と打席でバットを構えていた。その姿に西村亮監督も「粘りのいいバッティングでボールの捉え方も上手い」と若い選手の活躍に思わず頬が緩むほど。それでも、「チームが優勝できるようにしっかりサポートする」と山口に慢心はない。好投手の多い“戦国東都”でどれだけ通用するのか、新星の躍進が始まる。(池田初)

